

世界農業遺産国際スタディ・プログラム  
イタリア研修レポート（2023年9月11日）

【IFAD 訪問について】

アフリカでの食糧難をきっかけに 1977 年に設立された IFAD は先進国から資金を徴収し、途上国へ無償もしくは低利子で支援をしている国際機関である。WFP より分散する形で設けられたため、国際機関の中では小規模である。増資協議は3年に一度行われ、先進国より援助支援を収集している。私は世界中で年々人口が増加している中、それに伴い必要資金も増加しているのではないかと考えた。そこで、どのような対策を考え、取り組んでいるのかを IFAD 職員さんに質問をした。IFAD は開催される大規模サミット等の国際会議に参加し、増援の必要性を全世界に向けて訴えていると返答を頂いた。また、途上国や貧しい地域に支援を贈り続けるだけでなく、金融の仕組みを整える援助をすることで、途上国が自らの力で発展していけるように活動もしていると教えて頂いた。

IFAD は様々な角度より途上国における問題点に着目し、課題改善に向けて活動している。そこで、途上国における問題点とその課題改善意義について IFAD 職員さんより伺った話を元に考察する。

1, 気候問題について：

気候問題は国境を越えて世界中に影響を及ぼす問題であり、特に途上国や貧しい地域にとって気候問題は大きな影響を及ぼすと職員さんは訴えた。途上国では単一の食物栽培に頼っている地域が多くを占めており、気候変動によりその単一食物が栽培できなくなると、貧困の拡大と飢餓を引き起こす要因となる。気候変動の主な原因は、経済大国の排出によるものであり、これらの国が自らの責任を認識し、気候変動の影響を和らげるために補償や資源を提供し続ける義務があると考えられる。

2, ジェンダー差別について：

途上国では女性差別や虐待が未だに多く存在している。女性差別が存在する社会では女性が教育や雇用などの機会を制限されることが一番の問題点だと考える。女性が男性と等しく教育や雇用機会を得られるようになることは、より多様で効果的な政策立案と実行を可能にし、国や地域全体の発展にプラスの影響を与えることができる。女性差別に対する意識の向上、変革の支援が必要である。また、女性が活躍できる場、声を上げやすい環境を整えることも重要であると考えられる。

3, 栄養不足について：

偏った食生活や極端に少ない食事量は栄養不足を促進する大きな要因である。また、栄養不足と貧困は密接に関連している。栄養不足を改善することで貧困削減だけでなく、健康状態の向上、身体と脳の発達、そして結果的に経済成長へとつながると考える。IFAD は経済的流動性の向上をゴールとして、それを達成するための具体的な3

つの戦略的目標を掲げている。

①生産性の向上 ②市場アクセスの向上 ③より大きな回復力

これらの目標を実践し改善する過程において、栄養不足の課題も同時に改善に向けて取り組んでいることを知った。支援を考えるうえで、持続的・循環的に課題点を改善することが経済発展の効率を上昇させる仕組みだと考える。

### 【WFP 訪問について】

WFP は 2030 年までに飢餓で苦しむ人々を無くすという Zero Hunger を目標として掲げて世界中の国や地域で活動し、食糧不安の軽減と栄養改善に寄与している。

私はこの「2030 年までに」という目標を伺い、非常に野心的な目標であると感じた。実際に、私はあと 7 年でこの目標を達成することは可能なかと大胆に質問を投げかけた。返答としては、困難ではあるが国際機関や社会などが協力し、努力を続けることで実現可能性があるとのことだった。しかし、特に紛争地域や極端な貧困地域では課題が大きく、持続的な取り組みが必要である。そこで、飢餓を無くすための現状課題と必要な取り組みを WFP 職員さんより伺った話を元に考察する。

#### 1, 貧困削減：

飢餓は貧困と密接に関連しており、貧困層の所得向上や雇用機会の拡大が課題解決に必要である。特に発展途上国での貧困削減を促進するには持続可能なアプローチを行う必要がある。例えば、教育を普及させることで働くために必要なコミュニケーション能力向上や自給自足の仕組みを学ぶことができる。

#### 2, 緊急支援：

紛争や自然災害による飢餓に対処するために、迅速な支援が必要である。特に自然災害は突発的に発生するケースが多い。そのため、あらゆる事態を想定して事前に支援する環境を整えることも重要である。

#### 3, 栄養教育：

一定の作物だけを摂取し続けているだけでは栄養の偏りとなり、病気の促進につながる恐れがある。まずは、栄養教育プログラムなどを通じて、栄養バランスについて知ることから始めて、栄養状態改善を図る必要がある。

#### 4, 農業改善：

途上国で栄養の偏りが起きる大きな要因は、栽培できる作物が国や地域によって限定されていることである。乾燥地帯では、乾燥に強い作物しか作ることができない状況である。その状況を改善するために、ビニールハウス等で温度調節をする仕組みやパイプラインで水を運んだりできる環境を整え、多種多様な作物を栽培できるようにする。

これらの取り組みを実現させるためには、より多くの資金が必要であることが考えられる。一つの教育機関、一つのパイプラインを設立するだけでも多額の資金が必要となる。我々先進国民一人一人の課題意識の向上が必要不可欠である。さらに、寄付に対する知識も必要である。私自身も途上国における現状課題を認識しながらも、どうしたら少しでも貢献することができるのか知らなかった。私たちでも苦しんでいる人々を救うために何かできることはあるのかと質問をした。

Share The Meal というアプリケーションから気軽に寄付することができると教えてくださった。また、ネットを通じて WEP の活動や情報を得られることもできると教えてくださった。私は少しでも飢餓などの問題について WFP のサイトから知ろうとすることも貢献することに繋がると感じた。

我々は実際に現地に足を運び、途上国の設備を整えるということは厳しい。しかしながら、「考える」ことはできる。義務教育という制度の下、誰しものが学問を学ぶことができる環境に恵まれていることを自覚し、勉強をしたくてもすることができない途上国の子供たちの代わりに飢餓や貧困課題に対して考え続ける義務があると感じた。

長期に渡るウクライナ戦争の影響で飢餓に苦しむ人々が大勢居る現状を知った一方で、我が国の食事状況についても考えてみた。

我が国では、大半の国民が食糧難や飢餓で苦しむことはない。むしろ、大量に輸入、生産、加工し過ぎているのではないかと考える。我が国のスーパーやコンビニでは賞味期限切れで余った食品・食材が大量に廃棄されているのをよく目の当たりにする。また、「お腹がいっぱいになった」「好き嫌いがある」という理由で料理を普通に残す人も多い。私はこの光景を毎回勿体ないと感じて見てきた。

そこで、WFP 職員さんに先進国で余分に生産加工される食品・食材を途上国に寄付することは可能なのかと質問を投げかけた。

実際にそれは可能であり、すでに行われているが食品の品質と安全性などを考慮して慎重な計画と数多の協力が必要だと教えて貰えた。

我が国の食品余剰生産・加工の課題にあたり、お客様が購入する食品量の統計を記録し、必要最低限の食品のみを生産加工する努力を各販売店や加工場側が施す必要があると考える。食べ残し課題にあたっては、一人前や並サイズなどの量単位をより細かくすることを提案する。また、コース料理に至っても予め各料理の量やボリューム感をお客様が把握しやすいようにする。

食べ残しが起きる理由としては、お客様が料理の量やボリューム感を把握できていない為に起こるものだと考える。それを防ぐためにお客様が自身の胃のキャパシティを把握し、必要な分量だけを注文できるシステムを作る。例えば、パスタを食べたいが一人前は食べることのできない状態であれば、パスタ一人前から数グラム分だけ減らす注文を可能とし、その分お値段も割引できるようなシステムを普及させる。

しかしながら、この両方の提案ともお店側の負担が大きくなることを考慮しなければならない。

IFAD と WFP に訪問し、具体的な取り組み活動は異なるがどちらの機関も社会的に貧しい地域の人々を思い、支援し続けている機関だと知った。また、先進国の国民一人一人が飢餓や貧困に対する意識を向上させ、途上国へ持続的に支援し続けることが重要だと感じた。



Fig.1 IFAD 本部